



© Wienfoto.wien

辰巳琢郎 ピースメッセンジャー

1984年京都大学文学部卒業と同時にNHK連続テレビ小説「ロマンズ」にて全国区デビュー。以来、知性・品格・遊び心と三拍子揃った俳優として幅広く活躍。食通・ワイン通としても知られ、数々のワイン騎士号を贈られている。自ら企画したワイン番組も好評で13年目に突入した。「くいしん坊!万才」以来地域の活性化にも力を入れ、観光庁アドバイザーを務める。国連WFP協会顧問、日本棋院評議員、近畿大学文学芸学部客員教授。

藤井隆太 特別出演・フルート

3歳より故久保田良作氏にヴァイオリンを師事。11歳より故林り子氏にフルートを師事。桐朋学園大学音楽学部及び研究科修了。小出信也氏に師事。研究科在学中に渡仏。エコール・ノルマル・音楽院で故クリスチャン・ラルデ氏に師事。レオボルド・ペラン国際コンクールで1位入賞。1985年より小林製菓、1987年より三菱化成工業を経て1995年より龍角散8代目社長に就任。2017年3月度で就任時売上上の4倍以上176億円を達成。龍角散&ヤマト室内管弦楽団と毎年5月に開催される「龍角散ビルコンサート」に出演。2007年、同コンサートで小出信也氏とチマローザ本のフルートのための協奏曲を協演(同社ホームページで公開中)2012年、台湾大学医学人文博物館でのコンサートで現地ヴァイオリニスト、ピアニストと共演。日本交響楽振興財団賛助会員、東京シティアール財団評議員、厚生労働省社会保障審議会医療保険部会臨時委員、公益社団法人東京生薬協会会長、桐朋学園音楽部門同窓会副会長。

山下洋輔 ピアノ

1969年、山下洋輔トリオを結成、フリー・フォームのエネルギッシュな演奏でジャズ界に大きな衝撃を与える。国内外のジャズ・アーティストとはもとより、和太鼓やシンフォニー・オーケストラとの共演など活動の幅を広げる。88年、山下洋輔ニューヨーク・トリオを結成。国内のみならず世界各国で演奏活動を展開する。2000年に発表した自作協奏曲を佐渡裕の指揮により04年にイタリア・トリノで再演。06年オーネット・コールマンと、07年にはセシル・テイラーと共演。08年「ピアノ協奏曲第3番<エクスプローラー>」を発表。09年、柳慧作曲「ピアノ協奏曲第4番「JAZZ」」を世界初演。歴代メンバー総出演の「山下洋輔トリオ結成40周年記念コンサート」を開く。16年、ウィーン楽友協会ホールで佐渡裕指揮のトーン・クンストラ管弦楽団と共演し、大成功を収める。18年6月には、結成30周年を迎えるニューヨーク・トリオの記念アルバム『30光年の浮遊』をリリース予定。99年芸術選奨文部大臣賞、03年紫綬褒章、12年旭日小綬章を受章。国立音楽大学招聘教授。演奏活動のかたわら、多数の著書を持つエッセイストとしても知られる。公式ホームページ <http://www.jamrice.co.jp/yosuke/>

柳澤寿男 指揮者・バルカン室内管弦楽団音楽監督

旧ユーゴを中心に活動する日本人指揮者として知られる。2005-2007年、マケドニア旧ユーゴ国立歌劇場首席指揮者。2007年、国連コソボ暫定行政ミッション統治下のコソボフィル管弦楽団首席指揮者に就任。同時にサンクトペテルブルク響、プラハ響、フラデツカラロヴェ響、西ポヘミア響、ベオグラード国立歌劇場、セルビア国立放送響、サラエボフィル、アルバニア国立放送響などに客演。2007年、バルカン半島(特に旧ユーゴ)の民族共栄を願ってバルカン室内管弦楽団(以下BCO)を設立。2009年、コソボ北部ミトロヴィツァにおいて、国連、軍隊、警察などの協力を得て、コソボ紛争後初となる民族混成オーケストラによるコンサートを実現。コンサートの様子は日本の高等学校教科書「世界史A」(実教出版)にも記載されている。2010年にはニューヨーク国連総会に伴うイベント「バルカン・リーダーズ・サミット」で演奏を披露。2011年、国連とともに教育を受けないロマ民族の子供たちとのコンサートを開催。2013年8月の新宿駅東口モア4番街「第九フラッシュモブ」からWorld Peace Concertプロジェクトを始動。2015年から年に一度World Peace Concertを世界各地で開催。これまでにベオグラード(コラツホール)、ジュネーブ

(ヴィクトリアホール、国連欧州本部総会議場)、ウィーン(コンツェルトハウス)などでコンサートを開催し、諏訪内晶子氏(ヴァイオリン)、清水和音氏(ピアノ)、ベテール・ヤブロンスキー氏(ピアノ)、パスカル・ロジェ氏(ピアノ)等と協演。また2016年来日時に共演したミュージシャン玉置浩二氏が、柳澤寿男とBCOの活動に共鳴し、尊き命あるものとの共存、平和への祈りを込めて「歓喜の歌」を作曲。BCOは旧ユーゴ崩壊後の断絶された文化圏の貴重な架け橋として存在している。柳澤寿男とBCOの活動は、NHK総合テレビ「おはよう日本(特集～和解へのハーモニー)」、Eテレ「Switchインタビュー・達人達 石井竜也×柳澤寿男」、NHK BS1「BS特集～響け 内戦の記憶を越えて」、テレビ東京「世界ナゼそこに?日本人」、BSジャパン「戦場に音楽の架け橋を～指揮者柳澤寿男コソボの挑戦(第6回日本放送文化大賞グランプリ受賞)」など数多くのメディアで報道され続けている。国内では新日本フィル、日本フィル、東京フィル、東京都響、東京響、東京シティアール、札幌響、仙台フィル、群馬響、名古屋フィル、京都市響、大阪フィル、日本センチュリー響、大阪響、関西フィル、兵庫芸術文化センター管、九州響、アンサンブル金沢などに客演。2015年より東日本大震災復興支援のひとつとして坂本龍一氏監督による東北ユースオーケストラの指揮者を務めている。また同年より日本の音楽シーンをリードするポップミュージシャンとフルオーケストラによる融合プロジェクト、ビルボードクラシックスPremium Symphonic Concertの指揮者を務め、玉置浩二、八神純子、石井竜也、渡辺美里、May. J. 杏里、平原綾香、中島美嘉、小柳ゆき、藤井フミヤ、タケカワユキヒデの各氏等と共演。著書に「バルカンから響け!歓喜の歌(晋遊舎)」。

バルカン室内管弦楽団

※バルカン室内管弦楽団は弦楽器奏者とティンパニー奏者で構成されているため、この度はバルカン室内管弦楽団に加え、管楽器一部打楽器奏者は日本のプロフェッショナル演奏家によって編成されます。

バルカン室内管弦楽団(以下BCO)は、2007年に日本人指揮者柳澤寿男によってバルカン半島(特に旧ユーゴ)の民族共栄を願って設立。2009年5月、コソボ北部ミトロヴィツァにおいて、UNDP国連開発計画コソボ、ABD特定対象地域プログラム、UNKT国連コソボチーム、KFOR国際安全保障部隊、コソボ警察などの協力のもと、コソボ紛争後初となる、民族混成オーケストラによる歴史的コンサートを実現。2010年、ニューヨーク国連総会に伴うイベント「バルカン・リーダーズ・サミット2010」に招かれ、バルカン各国大統領・首相をまえに演奏を披露。2011年、ウィーン楽友協会ホールでの公演を実現。同年11月、UNDP国連開発計画アルバニアの協力により、ロマの子供たちとの共演を実現。このほか2009年、2012年、2014年には来日公演も果たしている。2015年にはベオグラードに於いて、World Peace Concertをスタートし、ヴァイオリニスト諏訪内晶子氏と協演。「世界市民」をメッセージとしたWorld Peace Concertは一年に一度世界各地で開催されている。2016年はジュネーブにおいて、国連欧州本部(国連欧州本部、在ジュネーブ日本政府代表部主催)とヴィクトリアホールにおいてピアニスト、ベテール・ヤブロンスキー氏と協演。2017年は設立10周年を迎え、ウィーン・コンツェルトハウスにおいてピアニスト、パスカル・ロジェ氏と協演。バルカン室内管弦楽団は旧ユーゴ崩壊後の断絶された文化圏の貴重な橋渡しともなっており、旧ユーゴ中南部のすべての主要オーケストラから参加する首席奏者、またオーストリアやスイスなどの名オーケストラで活躍するバルカン半島出身の奏者も合流し、高い水準を持ったオーケストラとして急成長を続けている。楽団員にはこれまでに、セルビア人、アルバニア人、マケドニア人、ボスニア人、クロアチア人、スロベニア人、ギリシャ人、ブルガリア人、ルーマニア人、トルコ人などが参加。またベオグラード、スコピエ、ティラナ、プリシュティナ、ミトロヴィツァ、ズベチヤン、サラエボ、ウィーン、ジュネーブ、ニューヨーク、東京、名古屋、岡谷、松本、金沢、京都などでのコンサートを実現している。いかなる国にも本拠地を置かないバルカン室内管弦楽団は、音楽が共通の言語、共通の感覚として人々の心を繋いでいくことを強く願っている。

[バルカン室内管弦楽団日本公演2018を応援する会] 50音順・敬称略

- 逢沢一郎 日本セルビア友好議員連盟会長
- 明石 康 公益財団法人国際文化会館理事長
- 近衛忠輝 日本赤十字社社長
- 近藤哲生 国連開発計画駐日代表
- 塩崎恭久 日本スロヴェニア友好議員連盟会長
- 柴 宣弘 東京大学名誉教授・城西国際大学特任教授

- 角崎悦子 公益財団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン理事
- 角崎利夫 元在セルビア兼モンテネグロ日本国特命全権大使
- 徳川家広 徳川記念財団理事・作家・徳川宗家19代にあたる
- 水野 清 前在東京マケドニア名誉総領事
- 美根慶樹 元在ユーゴスラヴィア日本国特命全権大使